

第5章 注釈付き参考文献

- 紛争解決トレーニング・マニュアル
- 紛争と紛争解決に関する文献および論文
- 学術誌、ニュースレター
- インターナショナル・アラート出版物とトレーニング報告書

紛争転換リソースパック
インターナショナル・アラート

第1版 1996年11月
イアン・ドウシェ編

1. 紛争解決トレーニング・マニュアル

基礎コース・マニュアル

Alternatives to Violence Project 編

Manual: Basic Course

(New York: AVP 1986)

本書は主にクウェーカー教徒によって開発されたマニュアルであるが、あらゆる宗教や精神文化にも応用できる。本書は「特定の哲学と慎重に体系化された一連の集団力学に基づいている。単純に効果のない…プログラムは含まれていない。」(AVP、1986年 紹介文)。本書では効果的な非暴力トレーニングの包括的基本ガイドとなるトレーニングコース用に書かれている。章立てには次のものが含まれる－①集団力学②力の移行③原則と実践。本書は人々が非暴力を体験できるように構成されている。

紛争解決技能のための手引き

Eileen Babbitt, Paula Gutlove, Lynne Jones 共著

Handbook of Basic Conflict Resolution Skills: Facilitation, Mediation and Consensus Building

(Cambridge, USA: Balkans Peace Project, 1994)

本書は1991年に旧ユーゴスラビアで始まった活動から開発された。心理的要素を重視し、利用者のために詳細な指導要綱がついた演習とシミュレーションが含まれている。

仲裁者のための手引き－隣人との平和創造

Jennifer Beer 編

Mediators Handbook: Peacemaking in Your Neighbourhood

(Philadelphia, USA: Friends Conflict Programs, 1990) 80pp, ISBN 0941308 12X

本書は家庭内や共同体における仲裁の基本トレーニング用の参照マニュアルとして開発された。

仲裁トレーニングに関するワークショップ

Community Dispute Resolution Trust 編

Mediation Training Workshop

(Johannesburg, S. Africa: CDRT, 1994)

本書は仲裁者になりたい一般人向けの入門書である。本書は個人間の紛争に焦点を当てている。おり、本書には紛争解決の技能が紹介されているが、その技能を身に付けるためには紛争解決における豊かな経験を参加者がワークショップにもたらすことを前提としている。本書では実践経験と議論が強調されている。本書には以下の項目が含まれている－①仲裁、紛争とは何か②対立を解決するためにどのような仲裁が可能か(事例研究)③仲裁に必要な能力④立場と利益⑤仲裁過程⑥コミュニケーションと力。

トレーナーのためのガイドー公務員のための人権トレーニング・プログラムの立て方

Commonwealth Secretariat, Human Rights Unit 編

Trainers Guide: Creating Human Rights Training Programmes for Public Officials

(London: HRU, 1992)

本書は、書名から明らかなように人権分野に関するワークショップを組織し運営していく上での基本的側面と、実践的側面を扱っている。

コミュニティーの紛争技能ーグループワークの手引き

Mari Fitzduff 著

Community Conflict Skills: A Handbook for Group Work

(Belfast: Express Litho, 1988) 212pp, ISBN 0 9513209

本書は主としてコミュニティー内関係のトレーニング能力を向上させたい個人または団体を対象としている。以下の分野の活動について記述している－①反派閥主義②紛争解決と仲裁技能③政治的議論の促進④政治

主張をする技能⑤偏見を緩和する技能⑥人権と正義。事例として北アイルランドが用いられている。

花火－紛争への創造的アプローチ

Nic Fine, Fiona Macbeth 共著

Fireworks: Creative Approaches to Conflict

(London: Youth Work Press, 1992) 100pp, ISBN 0 86155 145 1

本書は、主として若いプロの活動家と若者が対象である。紛争を調べる際の資料が集められている。

火遊び－紛争を創造的に利用するためのトレーニング

Nic Fine, Fiona Macbeth 共著

Playing with Fire: Training for the Creative Use of Conflict

(London: Youth Work Press, 1992) 175pp, ISBN 0 86155 141 9

本書は、我々の日常における紛争の影響に焦点を当てたトレーニングコースを扱っている。中心的な資料はトレーニング手法と技能に関するガイドである。仲裁や和解の過程における議論と同様に実体についても検討している。

トレーナーのための紛争解決マニュアル－12 の技能

Fiona Hollier, Kerrie Murray, Helena Cornelius 共著

Conflict Resolution Trainer's Manual, 12 Skills

(Chatswood, NSW, Australia: CRN, 1993) ISBN 0 958791155

本書は紛争解決トレーニングに関する知識と資料を集めたものである。紛争解決トレーニング、紛争転換、紛争研究、紛争分析、紛争管理、交渉、仲裁など様々な題材を扱っている。章立ては以下のものを含む－①題材紹介②学生を中心とする学習のための基調討論③参加者のためのパンフレットとワークシート④分科会の企画に関する提案と時期⑤グループ活動⑥紛争解決に関する補足⑦具体的な交流企画と合気道の練習⑧目次。

共同交渉と紛争解決トレーニング

Independent Mediation Service of South Africa 編

Joint Negotiation and Dispute Resolution Training

(Johannesburg, S.Africa: IMSSA, 1994)

本書は事例を用いて紛争管理の様々な手法を示している。紛争を解決する手法としての問題解決や仲裁を検討すると共に、様々なコミュニケーション能力と紛争管理能力を考察している。本書はいかにして交渉が紛争管理のための制度的手続となりうるかといった視点を提供し、紛争の扱い方によっていかに異なる結果が導かれるかを詳細に記している。

コミュニティーにおける仲介技能に関するトレーニング・マニュアル

Mediation UK 編

Training Manual in Community Mediation Skills

(Bristol: Mediation UK, 1995) ISBN 1 872756 50 6

本書は仲裁を扱う様々な情報源からの資料をまとめたものである。特に英国において仲裁に携わる人々を対象に書かれているが、専門家以外でも仲裁の方法を知りたい人々には有用である。本書は仲裁能力の養成を目指している。仲裁者となるための学習過程を反映して以下の7つの章に区分できる－①コース紹介②仲裁とは何か？③仲裁のための準備④仲裁過程－概観⑤仲裁の実践⑥仲裁者の役割⑦評価と査定。さらに本書には「トレーナーの注意書き」と「情報源」という付録がついている。

仲介トレーニング・マニュアル－建設的な紛争転換のための技能

Mennonite Conciliation Service 編

Mediation Training Manual: Skills for Constructive Conflict Transformation

(Akron, PA, USA: MCS, 1992)

メノナイト調停サービス(MCS)は以下のように本書について説明している。「トレーニング・マニュアルというものは常に事実上現行の“方針”

を編集したものとなっています。私達の場合、方針はかなり流動的であり、常に学び、適合させ、変更しています。以下のページでは、発展段階にあるアイデアや概念、提案された発達途上にある実践が記されています。これらは私達の経験や私達と活動を共にした人々の経験から導かれたもので（中略）私達は本書を5日間のトレーニング講習会を想定して構成しました。（中略）本書は北米での実践を反映しています。（中略）私達はこれを私達の多文化社会・世界の限界と認識しています。」章立ては以下の通り。①紛争解決トレーニング②紛争解決・転換③仲裁④紛争研究（理論と分析）⑤仲介・問題解決ワークショップ⑥コミュニケーション⑦和平合意・協定、集団力学⑧介入⑨情報技術、参考文献一覧、書評。

南アフリカにおける平和教育のための手引き

Quaker Peace Centre 編

The South African Handbook for Education for Peace

(Cape Town, S. Africa: Quaker Peace Centre, 1992)

本書は暴力の文化に対抗するため、特に南アフリカの状況、なかでも若者に照準を合わせた読みやすく包括的なハンドブックである。非暴力直接行動や公正、開発、偏見など種々のワークショップの概要を説明している。本書は以下の章を含んでいる—①インスピレーションと展望②ワークショップの実践「レシピ」（ここではワークショップの実用性やワークショップの型を幅広く扱っており、文学や音楽、芸術の概念とそれらの平和に対する貢献についても叙述している）③参考文献。

仲介技能の実践ガイド

Tony Spinks, Phill Clements 共著

A Practical Guide to Facilitation Skills

(London, Kogan Page, 1993) 183pp, ISBN 0 7494 1003 5

本書は学習者にとって適切で重要かつ意味のあるものにちがいない。著者は仲介の実用的なモデルを作成するための理論と実践をまとめており、

そのモデルについては結果によって評価し得る。重点的に扱っている項目としては以下のものが含まれる。①現実世界における仲介の説明と比較②学習者とスポンサーの講習前の連絡③現実世界の契約作成④グループの持つ勢いの維持⑤困難な行動と対応戦略⑥現実的な将来行動の奨励

南アフリカにおける原則立脚型交渉－基本トレーニング・マニュアル

Wilgespruit Fellowship Centre 編

Principled Negotiation in South Africa: A Basic Training Manual
(S. Africa: Negotiation and Community Conflict Programme, Wilgespruit, 1994)

本書は原則立脚型交渉を利用したり教えたりしている人々のための包括的なガイドとなるマニュアル。本書では原則立脚型交渉がどのように紛争分析、交渉の実施、紛争処理とその評価のためのシステムに役立ち得るか、ということを説明している。本書は複数の日常の例を用いている。以下の章が含まれる－①原則立脚型交渉②トレーニングの原則③原則立脚型交渉の基本④能力⑤手段と実践⑥要約と付録。

2. 紛争と紛争解決に関する文献および論文

抗議－紛争と平和創造における若者の役割

Eric Abitbol, Christopher Louise 共著

Up in Arms: The Role of Young People in Conflict and Peacemaking
(London: International Alert, 1995) 76pp, ISBN 1 898702 00 4

今日の世界を特徴付ける紛争の文脈の中で、本書は戦争、平和創造、紛争解決における若者と女性について研究している。統治や権威、アイデンティティ、南北分断、環境問題に起因する紛争を考察し、例を用いて説明している。

共通感覚の誕生－仲介を通じた紛争管理

Andrew Floyer Acland 著

A Sudden Outbreak of Common Sense: Managing Conflict through Mediation

(London: Hutchinson, 1990) 216pp, ISBN 0 09 174611 6

本書は個人同士や組織間の紛争の原因、そしていかに仲裁が的確で実践的にそれらの解決に役立ち得るか、を考察している。

パラダイムとしての平和と調停－平和の哲学とそれがアフリカの紛争、統治、経済成長に対して意味するもの

Hizkias Assefa 著

Peace and Reconciliation as a Paradigm: A Philosophy of Peace and its Implications on Conflict, Governance, and Economic Growth in Africa

(Kenya: Nairobi Peace Initiative, 1993)

本書は、社会行動の基礎としての主題に関する議論とそのよりよい理解を促進することを目的としたナイロビ平和行動（NPI）モノグラフ・シリーズ（NPI Monograph Series）初版の一部である。アフリカにおける平和と平和創造の様々な側面についての論文や記事を掲載している。著者は紛争解決理論や神学、政治学、社会心理学、経済学の識見を平和パラダイムの構築に向けてまとめ上げており、それをアフリカにおける紛争や統治、独立国家としての地位、経済開発の問題に応用している。

急進派と紛争解決－フィラデルフィア MOVE 事件

Hizkias Assefa, Paul Wahrhafting 共著

Extremist Groups and Conflict Resolution: The MOVE Crisis in Philadelphia

(New York: Praeger, 1988) 160pp, ISBN 0 275 92694 X

本書は事例研究としてフィラデルフィアの MOVE 事件を用い、紛争解決メカニズムや第三者仲介、様々な第三者の役割について考察している。MOVE 事件は複雑な紛争やそれに対処する多くのメカニズムの多様な側面を例

証している。さらに、この事件は紛争過程の力学と発展段階を示し、紛争解決および各々の手法の利点と限界、紛争解決の複雑性に関する多様なアプローチを提供している。これは、多数派の価値観と異なる世界観を有する当事者が存在する状況におけるアプローチである。

方針とパターン

David W Augsburger 著

Pathways and Patterns

(Kentucky, USA: Westminster/John Knox Press. 1992)

本書は、紛争のバリエーションについて考察し、対立を解消する際に個人間アプローチから転換することを提案している。個人間と集団間の紛争を考察し、様々な文化内および文化間の紛争のパターンを比較している。①状況的模式と文化的パターン②個人的パターンと共同社会的パターン③直接的パターンと間接的模式。

統一見解の構築－コンセンサス決定のための手引き

M. Avery 他著

Building United Judgement: A Handbook for Consensus Decisionmaking

(Madison, USA: Centre for Conflict Resolution, 1981) 124pp

本書はコンセンサスの原則を効果的に機能させる技術と能力を詳述している。

英国におけるグループ療法

M. Aveline, W. Dryde 共編

Group Therapy in Britain

(Oxford: Oxford University Press, 1988) 345pp, ISBN 0 335 09829 0

本書は、集団環境内で利用可能な療法を概観している。小集団や治療上の共同体、大集団などを考察し、そのトレーニングを論じる。人間関係タビストック協会(Tavistock Institute of Human Relations)とその「レスター会議(Leicester Conferences)」の章（集団と組織行動に関する経

験学習）が役立つ。

第三世界の社会紛争管理－外交の促進と発展

Edward E Azar, Chung In Moon 共著

Managing Protracted Social Conflicts in the Third World:
Facilitation and Development Diplomacy

(Millenium, Journal of International Studies, 1995) Vol 15, No.3,
393-406

国際的紛争解決－理論と実践

Edward E Azar, John W Burton 共編

International Conflict Resolution: Theory and Practice

(Brighton, UK: Wheatsheaf and Boulder, USA: Lynne Reiner, 1986)
159pp, ISBN 0 7450 0227

アフリカの国家－胃袋の政治

Jean-Francois Bayart 著

The State in Africa: The Politics of the Belly

(London: Longman, 1993) 364pp, ISBN 0 582 06421 X

本書は、飢饉や腐敗、内戦といったアフリカに共通する前提を取り扱った上でアフリカにおける政治の性質を研究している。その他の地域の政治にまつわる状況との類似点および多様性の両方を明らかにしている。

社会紛争と第三当事者－紛争解決の戦略

Jacob Bercovitch 著

Social Conflicts and Third Parties: Strategies of Conflict
Resolution

(Boulder, USA: Westview Press, 1984) 163pp

本書はまず紛争概念と紛争の存在する理由、さらにはそれらの解決における第三者の役割についての理論的理解を深めることを試みている。本

書では紛争の破壊的な行動表現に注意をひきつつ、効果的な第三者の干渉を、紛争がもたらす肯定的な帰結を実現するべくデザインされた一連の社会的技術としてとらえている。

国際関係における仲裁－紛争管理に対する多角的アプローチ

J Bercovitch, Jeffrey Z Rubin 共編

Mediation in International Relations: Multiple Approaches to Conflict Management

(London: Macmillan, 1990) 283pp, ISBN 0 333 61045 8

本書ではとりわけ以下のことを検討している－①仲裁とは何か？②仲裁は交渉で（とりわけ国際交渉で）どのような役割を果たし得るか？③国家間および国家を超える紛争を公平で平和的に解決する可能性を高める仲裁過程をいかに構築できるか？

衝突する文化－ヨーロッパ文化と非ヨーロッパ文化の遭遇

Urs Bitterli 著

Cultures in Conflict: Encounters Between European and Non-European Cultures

(Cambridge, UK: Polity Press, 1989) ISBN 0 7546 1157 5

本書は、ヨーロッパの探検家と非ヨーロッパ文化の遭遇に焦点をあてながら双方の経験を再構築することを試みている。著者は、幅広い範囲の基礎要因を描きながら、文化の遭遇を3つの形式に区別し、事例研究の中でそれらを考察している。本書は特に紛争の文化的側面に関する参考書として役立つであろう。

社会力学における紛争の役割

Kenneth E. Boulding 著

The Role of Conflict in the Dynamics of Society,

Current Research on Peace and Violence (1986, Vol 9, No 3, 98-102pp)

本稿は、個人や組織、社会の活動の中で一般的に紛争が果たす役割を広

く概観している。さらに、紛争の役割に関して様々な重要度を主張する無数の学説が打ち立てられていることを概略している。紛争の能力に注目することにより、本稿は人々や国家にとって重要である「象徴」が出現すると結論づけている。加えて、紛争の役割について研究者は特別の注意を払う必要があると主張している。

紛争と防衛－一般理論

Kenneth E. Boulding 著

Conflict and Defence: A General Theory

(New York: Harper, 1962)

本書は、紛争解決および個人・組織・集団についての理論的アプローチや個人・組織・集団の紛争当事者としての役割を再検証している。本書で扱われている紛争には以下のものが含まれる一階級間闘争、産業紛争、国際紛争、イデオロギーや倫理をめぐる紛争。本書で著者は「生存能力 viability」理論（他の当事者を排除する能力と意志を有する当事者が少なくとも1つ存在する紛争を示すのに用いられる概念）を主張している。

平和と平和教育に関するフェミニストの視点

Birgit Brock-Utne 著

Feminist Perspectives on Peace and Peace Education

(Oxford, UK: Pergamon, 1989) 200pp. ISBN 008 036567 1

本書では、個人的事例から国際的事例まで幅広い例を説明しながら、紛争と平和（消極的および積極的形態を含む）に関する有用な分析がなされている。

紛争－管理、処理、解決の実践

John Burton, Frank Dukes 共編

Conflict: Practices in Management, Settlement and Resolution

(London: Macmillan, 1990)

本書では実情で最も影響力の大きい方法を詳述し、その文脈や性質、影

響を分析することによって紛争処理・紛争管理・紛争解決の分野全体における「地理分布」を示している。論点は犠牲者と犯罪者の和解から内戦終結を目的に開催されるワークショップまで含んでいる。紛争解決過程は紛争処理や紛争管理を目的とする活動とは区別されている。

紛争－ヒューマン・ニーズ理論

John Burton 編

Conflict: Human Needs Theory

(London: Macmillan, 1990)

本論文集では統一的な見解は示されていないが、根深い社会紛争の源泉が満たされない基本的ニーズにあり、紛争解決の課題は基本的ニーズの理解を深め充足を得る方策を開発することにあることを示す強い論拠が提示されている。

紛争－管理と解決に関する著作集

John Burton, Frank Dukes 共編

Conflict: Readings in Management and Resolution

(London: Macmillan, 1990) 354pp, ISBN 0 333 52145 5

本書は「学生や実務家、あるいはこの新しい研究分野である紛争解決に初めて触れるような一般読者」向けに書かれている。根深い紛争の理解と解決を促す方策に焦点が当てられた新旧 18 本の論文が集められている。深刻な社会紛争の原因とそれを解決する手法の双方に着目しながら、一般理論から特定の紛争の分析まで論点は及んでいる。

紛争－解決と再発予防（プロベンション）

John Burton 著

Conflict: Resolution and Provention

(London: Macmillan, 1990) 259pp, ISBN 0 333 53193 0

基本的ヒューマン・ニーズに関する著者の理論は、問題解決過程が紛争解決を可能にするだけでなく、原因を除去することによってその再発「予

防（プロベンション）」も可能であることを示すべく展開されている。あらゆる紛争の中でも、多民族社会における紛争は最大の試練であり、最も忍耐を要する。このような紛争はエリートによって統治されている多民族社会の正統性の危機を印象的に浮き彫りにしている。

根深い紛争の解決－手引書

J.W. Burton 著

Resolving Deep-rooted Conflict: A Handbook

(Lanham, Md, USA: University Press of America, 1987)

本書は 20 年間にわたる紛争解決における理論と実践に関する研究をまとめたものである。交渉可能な個人や集団、国家の利益だけでなく妥協不可能な根深い動機や価値観、要求（ニーズ）をも含んだ紛争を解決する手法について述べている。本書の第一部では紛争の特徴を論じ、第二部では用語を説明している。

仲裁が約束するもの－エンパワーメントと認識を通じた紛争への対応

Robert A Bush, Joseph P. Folger 共著

The Promise of Mediation: Responding to Conflict Through Empowerment and Recognition

(San Francisco: Josse-Bass) 296pp, ISBN 0 7879 0027 3

本書は仲裁が持つ紛争転換への可能性について考察している。著者は二つの詳細な例と二つの詳細な事例研究を用いて転換を促す仲裁の実践について事例説明を通じて紹介している。個人の力と他者に対する同情の双方に価値を置いた紛争の仲裁を理解するための代案となる理論枠組みを提供している。

ジェンダーと紛争の発展 第1巻－概略

Bridget Byrne 著

Gender and Conflict Development. Volume I: Overview

(Brighton: Bridge, 1996) 61pp

これはオランダで開催された「ジェンダーと紛争の発展」についての会議のために準備された報告書である。紛争の種類と原因、権利・保健・経済学を含む紛争におけるジェンダーの重要性や紛争への対応等を理解するための章に分けられている。

ジェンダーと紛争の発展 第2巻－事例研究

Bridget Byrne, Rachel Marcus Stevens, Tanya Powers 共著

Gender and Conflict Development. Volume II: Case Studies

(Brighton: Bridge, 1996) 147pp

民族自決権－国際的見方と紛争解決、現行の選択肢と新たなメカニズム

D Clark, K Rupesinghe, R Williamson 共編

Self-Determination: International Perspectives, Conflict Resolution, Current Options and New Mechanisms

(London: Macmillan, 1996) 480pp, ISBN 0 333 650 948

全員が勝者－紛争を解決するには

Helena Cornelius, Shoshana Faire 共著

Everyone Can Win: How to Resolve Conflict

(Rosewood, NSW, Australia: Simon Schuster, 1994) 192pp, ISBN 0 7318 0111 3

本書は一般向けの最も知られた本の1つ。各章で、紛争に対応する際に有用な12の手法と1つの技能を紹介している－ウィン・ウィン、創造的対応、共感、適切な断定、協働の力、感情の管理、解決の意志、紛争の俯瞰図化、選択肢の立案、交渉、仲裁、視野の拡大。

建設的な紛争管理－結果を残すための管理方法

John Crawley 著

Constructive Conflict Management: Managing to Make a Difference

(London: Nicholas Brealey, 1992) 279pp, ISBN 1 85788 014 5

本書は仲介や「七段階の問題解決」といった技術を示すと共に実践演習や現実の例を挙げているところが特徴的である。こうした技術には、積極的に聞くこと、中立的な質問、選択肢の創出、相互の問題定義、紛争解決、が含まれている。

転換のための道具－個人的研究

Adam Curle 著

Tools for Transformation: A Personal Study

(London: Hawthorn Press, 1990) 224pp, ISBN 1 869 890 21 3

著者はライフワークとしての仲介や開発、教育に関する経験を記し、紛争を建設的に変化させる道筋を提示している。仲裁と平和創造について、大規模な暴力紛争と個人間紛争の双方におけるものを詳述する。仲裁についての明快な説明や読者「自身」および我々が住む世界を一変させる手法を生み出すために心理学や近代物理学、仏教、クウェーカーの慣習から受ける影響を著者は融合している。

もう1つの道－現代の暴力に対する建設的対応

Adam Curle 著

Another Way: Positive Response to Contemporary Violence

(Oxford: Jon Carpenter, 1995) 150pp, ISBN 1 897766 22 X

本書は現代の暴力の範囲と原因に関する社会学的・哲学的解釈について簡潔に説明している。そして、このような現代の暴力への対抗手段として本書では紛争の非暴力的解決の原則やその過程および非平和的な人々とその人間関係の転換が紹介されている。

間に立って－暴力状態における非公式仲裁

Adam Curle 著

In The Middle: Non-Official Mediation in Violent Situations

(Leamington Spa, UK: Berg, 1986) 55pp, ISBN 0 85496 506 8

この簡潔な本の中で著者は、戦闘を続ける勢力を交渉に応じるように説

得する効果的な手段として非公式仲裁を支持している。互いの敵対的な認識を変化させ、問題の解決策を見出す手助けをすることによって当事者を説得する試みである。著者は平和創造の難しさについても議論している。

アフリカにおける紛争解決

Francis M Deng, I William Zartman 共編

Conflict Resolution in Africa

(Washington, USA: Brookings Institution, 1991) 399pp, ISBN 081 571 797 0

本書ではアフリカの紛争の特徴、とりわけ政府、武力、アイデンティティ、正義の肯定的な役割と否定的な役割、それから紛争解決の可能性について、特にスーダン、アンゴラ、南アフリカの紛争を例にとって検証している。本書はアフリカと北半球からの出身者によって書かれている。ここ数十年の間にアフリカ大陸の大部分は暴力紛争によって特徴づけられるようになってしまった。本書は、暴力紛争についての著名な国際的研究者の研究成果を精選している。こうした紛争がもたらす経済成長や人道的苦難、政治的不安定、飢饉、軍国化といった影響に関する文書や批評を提示し、アフリカの安全保障状況を改善する必要性を強調している。地域間協力や開発の必要性、独裁や権力濫用ではなく権力を分割するエリート集団を国内で形成することの必要性を力説している。

紛争解決－建設的な過程と破壊的な過程

Morton Deutsch 著

The Resolution of Conflict: Constructive and Destructive Process
(New Haven, USA: Yale University Press, 1973)

著者は本書で破壊的紛争を見分ける手法と紛争が破壊的になるのを予防する手法を扱っている。様々な情報源からの例が引かれている。紛争当事者間でよりよいコミュニケーションをとるためのガイドラインとなるだけでなく、紛争における第三者の役割に関する有用な視点を提供して

くれる。

アフリカにおける紛争解決－フェルメダ・ワークショップ

Leonard W Doob 編

Resolving Conflict in Africa: The Fermeda Workshop
(New Haven, USA: Yale University Press, 1970)

本書は1969年イタリアで開かれたフェルメダ（Fermeda）のワークショップに関する事例研究である。このワークショップにはソマリア・ケニア・エチオピア国境紛争当事者の代表が参加していた。本書ではワークショップ参加者や主催者の見解や評価も扱っている。

紛争の発展－ジェンダーの視点から

Judy El Bushra, Eugenia Piza-Lopez 共著

Development in Conflict: The Gender Dimension
(Oxford, UK: Oxfam and London: ACORD, 1993) ISBN 151623/138654

本書は1993年の初めにタイのパタヤでオックスファムが開いたワークショップの報告書である。本書には武力紛争、ジェンダーの特質、ジェンダーを配慮した紛争対応の実施、事例研究などの章が含まれている。

内戦

Hans Magnus Enzenberger 著

Civil War

(London: Granta/Penguin, 1993) 144pp, ISBN 0 14 014094 8

この簡潔な本では冷戦後のヨーロッパにおけるナショナリズムとその悲観的帰結について検証している。

第三者の段階的介入モデルにおける仲裁と協議の潜在的相互補完性 （仲介の可能性と第三者が介入する場合の協議）

Ronald J Fisher, Loreleigh Keashly 共著

The Potential Complementarity of Mediation and Consultation within

a Contingency Model of Third Party Intervention

(Journal of Peace Research, 1991, Vol 28, No 1) 29-42

この学術論文は仲裁と協議の関係について分析している。協議が仲裁の有用な前座であり、後には紛争の激化を緩和するのに役立ち得ることが示されている。

マキャベリを超えて－紛争対応のためのツール

Roger Fisher 著

Beyond Machiavelli: Tools for Coping with Conflict

(USA: Harvard University Press, 1992) 151pp, ISBN 0 674 06916 1

本書は紛争の対処方法に関する理論が不十分であることを指摘し、問題解決技能を磨く手法を実践的に利用することをめざしている。

同意への道－屈服なき交渉による合意

Roger Fisher, William Ury 著

Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving in

(London: Penguin, 1983) 161pp, ISBN 014 00 6534 2

「原則立脚型交渉」というハーバード流派の基本文献の1つである。利害関係に基づく交渉の手法を用いて、様々な紛争のタイプにおいて相互に受容可能な合意に達する段階的戦略を提示している。

共生への道－交渉しながら関係を構築する

R Fisher, S Brown 著

Getting Together: Building Relationships as we Negotiate

(Boston, USA: Penguin, 1990)

“Getting to Yes”の続編である本書は社会的、経済的、個人間、政治的関係を構築する実践的アプローチを提供している。このアプローチにより見解の相違や紛争といった現実を克服することが可能になる。

清教徒の声－平和創造者としての市民

Edmundo Garcia 編

Pilgrim Voices: Citizens as Peacemakers

(Philippines: Ateneo de Manila University Press, 1994) 294pp, ISBN 971 550 114 1

本書は平和創造に関する国際討論会の報告書である。この討論会では泥沼化する政治紛争、社会紛争、民族紛争に巻き込まれた国家に平和をもたらす具体的アプローチに焦点があてられ、また、以下の3テーマに関する参加者の考えも記録している－①市民参加②第三者による仲裁と国際的ネットワーク作り③癒しと和解

市民参加のアプローチ（フィリピンにおける平和創造）

Edmundo Garcia 著

Participative Approaches to Peacemaking in the Philippines

(Tokyo: United Nations University Press, 1993) 97pp

本書は「世界の様々な地域の市民のささやかな試み（今日の武力紛争への創造的な介入をめざす市民）」として紹介されている。本書は、平和を達成するためにフィリピンにおいて市民がとったイニシアティブを記述し、読者が本書から得た理解を基に平和創造へのより効果的なアプローチを自分自身で発見することを期待している。

希望への旅路－平和と政治に関する随筆

Edmundo Garcia 著

A Journey of Hope: Essay on Peace and Politics

(Quezon City, Philipines: Claretian, 1994) 211pp, ISBN 971 501 594 8

本書は、読者の心に希望と平和への「道しるべ」を立てることを求めながら、人々が現実について考えるための重要な評論を含んでいる。

戦争と平和創造－紛争と変化に関する随筆集

Edmundo Garcia 著

War and Peace Making: Essays on Conflicts and Change
(Quezon City, Philippines: Claretian, 1994) 209pp, ISBN 971 501 586
7

本書は教育者、学生、若者、現役活動家、有能な立法者向けに書かれている。本書では平和への具体的アプローチに関して他の地域や異なる環境における経験を比較する。これは行き詰まりだけが存在していると思われる状況下で、人々が有効なアプローチを再考することを願うものである。

フィリピンにおける平和の実践

Edmondo Garcia, Carol Hernandez 共編

Waging Peace in the Philippines

(Manila: Ateneo Centre for Social Policy and Public Affairs & University of the Philippines Centre for Integrative and Development Studies, 1989) 233pp, ISBN 971 113 088 2

本書には「公正で持続する平和を達成するために権力はどのように統御され得るか?」といった命題に対する多種多様な見解が集められている。本書は主要な論文、総合ワークショップ、1988年にフィリピンで開かれた紛争解決に関する国際会議の決議と提案を含んでいる。

仲介進行役のための手引き

John Heron 著

The Facilitators' Handbook

(London: Kogan Page, 1989) ISBN 0 749 400102

本書で、著者は経験学習グループの仲介に用いられる主要な6つの次元を示している。さらに、それぞれの次元における意思決定過程の3つの基本型を定義する分析システムを提供する。ここでは、包括的な集団力学理論を含む基本的な理論内容と広範な行動類型を結び付けている。本書は、高等教育・生涯教育、経営・管理、医療関係その他多くの専門分野における経験学習グループの進行役にとって有益な本である。また、

紛争解決トレーナーにとっても参考になる一冊である。

グループ仲介－理論と実践モデル

John Heron 著

Group Facilitation: Theories and Models for Practice

(London: Kogan Page, 1993) 194pp, ISBN 0 7494 0970 3

本書における理論と実践モデルは経験学習グループの進行役に役立つように作られている。著者は主題の実践的側面や概念的側面、精神的側面を合わせて記述している。また、進行役に対する手引きと共に多くの実践的な演習と手順を含めて執筆している。

紛争解決技術に関する一考察－問題解決ワークショップから理論まで

Barbara J Hill 著

An Analysis of Conflict Resolution Techniques: From Problem-Solving Workshop to Theory

Journal of Conflict Resolution, 1982, Vol 26 No 1, 109-138

「問題解決ワークショップ」の流儀における3つの主要な流派の概略を知ることができる。著者は主要な流派間での収斂点を見ている。著者は複数の事例研究を批判的にとらえ、非常に多様な結果を見出している。そして、介入自体の結果が建設的にも破壊的にもなり得ることから、介入にはより深い科学的分析が必要であると注意を促している。

経験に基づくトレーニング：実践的なガイドライン

T Hobbs 編

Experiential Training

Practical Guidelines

(London: Routledge, 1992) 207pp, ISBN 0 415 07438 X

教えられる側の生活経験と既存の知識の直接的な認識と評価を利用するトレーニング方法に関する本である。特に感情的な部分について人々をどう指導するかが探求されている。

対人関係技能の磨き方

Peter Honey 著

Improve Your People Skills

(London: Institute of Personnel Management, 1988) 177pp, ISBN 0 85292 396 1

本書は、用語集の形式で書かれた、対人関係技能の実践的なトレーニングを紹介している。

紛争における民族グループ

Donald L Horowitz 著

Ethnic Groups in Conflict

(Berkeley, CA, USA: University of California Press, 1985) 697pp

著者は民族紛争に関連する理論や傾向、政策に焦点をあて、政策の基礎をなす一般的傾向の性質を理解することを目指している。アジアとアメリカ、中東とカリブ海地域について比較分析を行なっている。

泥沼化した紛争とその転換

Louis Kriesberg 編

Intractable Conflicts and their Transformation

(New York: Syracuse University Press, 1989)

この論文集では個人間、共同体に基づく、民族内、国家間のものを含む長期化した紛争について議論されている。

国際的な紛争解決－米ソ関係と中東の事例

Louis Kriesberg 著

International Conflict Resolution: The U.S.-USSR and Middle East Cases

(London: Yale University Press, 1992) 278pp, ISBN 0 300 05175 1

新たな手法－異文化間の紛争解決トレーニングに関する新たな視点

John Paul Lederach 著

Beyond Prescription: New Lenses for Conflict Resolution Training
Across Cultures

(Waterloo, Canada: Conrad Giebel College, 1992) 44pp

この評論は文化や民族、国境を越える場合の紛争解決と仲介の分野におけるトレーニングの目的と実践について議論している。著者はトレーニング・モデルを発展させ、最終的には「顕在化アプローチ」という独特のトレーニング手法を詳細に説明する。著者は多文化環境においてこの手法が役立つと期待している。

平和の構築－分裂社会における持続する和解

John Paul Lederach 著

Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies

(Tokyo: United Nations University, 1995) 167pp

本書は次の二つの節に分かれる－①現代の紛争の特徴②平和構築と紛争転換に関する基本的見解と概念。著者は帰納法アプローチに従い、実生活において仲介と平和構築がジレンマに陥った経験に基づいて得た学習とその結果を統合しようと試みている。

平和のための準備－異文化における紛争転換

John Paul Lederach 著

Preparing for Peace: Conflict Transformation Across Cultures

(New York, Syracuse University Press, 1995) 133pp, ISBN 0 8156 2656

8

本書は、紛争解決トレーニングの目的と実践について特に仲裁を中心に扱っている。例えば「パッケージ化、プレゼンテーション、社会知識の提供」といった北米文化が示すモデルを考察した後、様々な状況に適切なモデルを創造し発展させるには、紛争転換や仲裁のためのトレーニングに重要な資源としての文化的知識が必要である、と提起して本書を結

論付けている。本書は文化を越えて活動するトレーナーのためのガイドであり、開発援助や緊急援助あるいは非政府組織（NGO）を通じて紛争解決に従事する人々に有用であろう。

紛争の分類－不均衡と和解

C R Mitchell 著

Classifying Conflicts: Asymmetry and Resolution

(Annals of the American Academy, 1991, 518, November) 23-38

この学術論文では、権力、構造、正当性に関して不均衡であることを、泥沼化する内戦の解決を難しくする理由の一つとしてとらえている。そして、解決の適切な形式が考察されている。

国際紛争の構造

C R Mitchell 著

The Structure of International Conflict

(London: Macmillan, 1981)

本書は国際紛争の構造と過程について記述し、心理学的次元にも言及している。紛争が長期化する中で人々の認識や行動が、またコミュニケーションの一形態としての紛争行動がどのように変化していくのかについて詳しく扱っている。

紛争とジェノサイドに対する国際的対応－ルワンダの経験による教訓

Overseas Development Institute 編

The International Response to Conflict and Genocide: Lessons From the Rwandan Experience

(London: ODI, 1996) ISBN 87 7265 331 0; 87 7265 332 9; 87 7265 333 7; 87 7265 334 5; 87 7265 335 5

この出版物は4つの報告書（①歴史的認識②早期警報と紛争管理③人道支援とその効果④戦後のルワンダ再構築）と1994年ジェノサイドと国際救援活動に反応する形で多くの機関や研究者によって作成された報告書

から構成されている。

ルワンダ危機（1953－94）－ジェノサイドの歴史

Gerard Prunier 著

The Rwanda Crisis 1953-94: History of Genocide

(London: Hurst, 1995) 389pp, ISBN 1 86065 247 3

本書にはルワンダ危機に関する包括的な研究が詳細に説明されている。植民地主義と脱植民地化の果たした役割や民族力学の展開に関する歴史的背景の説明が含まれている。

対立から協力へ－民族紛争・地域紛争の解決

Jay Rothman 著

From Confrontation to Cooperation: Resolving Ethnic and Regional Conflict

(London: Sage, 1992) 246pp, ISBN 0 8039 3595 1

本書は事例研究としてイスラエル・パレスチナ紛争に焦点をあてているが、他の紛争に関しても記述している。既存の紛争管理メカニズムの相対的な失敗例を説明すると共に、国際関係の定義を拡大することによる相対的な利益についても説明している。ここでいう国際関係の定義の拡大とは、「異なる国家集団（主権国家であるか否かに関わらず）が紛争状態にある」という状況も国際関係としてとらえるための拡大である。

民族政治学－概念枠組み

Joseph Rothschild 著

Ethnopolitics: A Conceptual Framework

(New York: Columbia University Press, 1981)

著者は民族政治と民族紛争の専門用語およびその特徴についての概念的枠組みを提供することを試みている。

紛争転換

Kumar Rupesinghe 編

Conflict Transformation

(London: Macmillan, 1995) 270pp, ISBN 0 333 60210 2

本書は紛争転換の分野における様々な経験から得られた紛争に関する認識と理解についての多様な紛争研究家や平和研究家の論文集である。紛争は複雑であり、それゆえに、直ちに解決しようとするのではなく、その解決や転換には精力的で持続的な対応が必要であると本書では主張されている。転換に向けた非暴力的アプローチを通じて紛争転換や平和構築の理論を発展させる必要性に焦点をあてる著者もいる。彼らは和解の限界を検証し、南半球におけるアイデンティティの形成や民主主義、暴力に関する問題に焦点をあてる。アジアやアフリカ、中南米、中東が事例研究として採り挙げられている。

暴力の文化

Kumar Rupesinghe, C Marcial Rubio 共著

The Culture of Violence

(Tokyo: United Nations University Press, 1994) 292pp, ISBN 92 808 0866 4

この評論集は文化と暴力の関係を検証するものである。個々の文化や社会の中での暴力の性質について理解を深める必要性和、暴力紛争を軽減し解決する手法についての知識を共有する必要性が繰り返し述べられている。寄稿者は文化と暴力の間の関連を検証し分析している。彼らはボリビアやブラジル、チリ、コロンビア、スリランカ、米国といった特定の例を挙げて理論的な考察との均衡を保っている。

紛争解決のためのマルチ・トラック外交と持続的方策

Kumar Rupesinghe 著

Multi-Track diplomacy and the Sustainable Route to Conflict Resolution

(Cultural Survival Quarterly, Fall 1995) 13-18

本稿では紛争解決に対する伝統的アプローチの失敗を検証し、その代案として、現代紛争の現実に対処するための概念的見通しを簡潔に説明している。マルチ・トラック外交がもたらす利益と紛争解決における現代の国際努力の限界を検証している。本稿では「積極的平和」の概念について議論している。破壊的紛争への激化を促す緊張要因となる構造的問題や不公平を扱うアプローチについて、および早期警報を構造的かつ包括的に計画する必要性についての議論がある。マルチ・トラック外交アプローチでは、資源をめぐる紛争と関連づけられがちな「ゼロ・サム」ゲームを克服すると同時に、社会的多元性という理想を実現している。

現代世界における民族と権力

Kumar Rupesinghe, Valery A Tishkov 共編

Ethnicity and Power in the Contemporary World

(Tokyo: United Nations University Press, 1996) 298pp, ISBN 92 808 0908 3

本書には 15 本の評論が収録されている。そこでは、暴力紛争の原因や力学、解決の可能性についての考察を加えつつ、世界の異なる地域の研究者が旧ソ連、東アフリカ（エチオピア、エリトリア、ソマリアなど）、インド、スペインのバスク地方、旧ユーゴスラビア、北アイルランド、米国における紛争を分析している。

南アジアの内戦

Kumar Rupesinghe, Khawar Mumtaz 共編

Internal Conflicts in South Asia

(London: Sage, 1996) 194pp, ISBN 080 3 97752 2

本書はスリランカやパキスタン、インドとバングラデシュといった国を巻き込む内戦と国際紛争の双方の原因を研究し、それらの類似性と相違を考察して、平和的解決の可能性を探求している。

非暴力活動の政治学

Gene Sharp 著

The Politics of Nonviolent Action

(Boston: Porter Sargent Publishers, 1980)

著者は、政治権力と紛争の源泉を分析した後、非暴力活動に関して潜在的暴力紛争を非暴力的筋書きで解決するための関する様々なアプローチや戦略について概略している。後半部分は第三世界における非対称紛争の平和的解決の可能性について再検討している。

ストックホルム国際平和研究センター年鑑

Stockholm International Peace Research Institution 編

SIPRI Yearbook

(Oxford: Oxford University Press, 1995) ISBN 0 19 829166 3

SIPRI 年鑑は戦争や兵器、軍隊、政治的情報に関する主要で基礎データ（文章または表の形式で）に数多くのページを割いている。さらに前年度の主要な出来事についての章もある。

紛争解決－実践アプローチ

Gregory Tillett 著

Resolving Conflict: A Practical Approach

(Sydney, Australia: Sydney University Press, 1991) 180pp, ISBN 0 424 00179 9

広い範囲で人類の紛争を考察し、創造的な問題解決アプローチを目指すための基本原則と実践的戦略を提供している。最新の研究成果を用い、単純な紛争にも複雑な紛争にも等しく適用され得る紛争解決の原則をいかに実践的に適用するか、について説明するために事例史を用いている。

拒否を超えて－硬化する人々との交渉

William Ury 著

Getting Past No: Negotiating with Difficult People

(New York: Bantam Books, 1991)

対立の原因を明らかにし両者の要求を満たすような創造的な選択肢を創案するための実践的技法を提供している。建設的に権力を用い、困難な状況においてコントロールを維持する手法を紹介している。

**紛争解決－非政府活動の評価（警告）－報告書 No.4 緊急援助と
災害援助に関する研究）**

Efthira Voutira, Shaun A Whishaw Brown 共著

Conflict Resolution: A Review of Some Non-Governmental Practices:
A Cautionary Tale. Report No 4, Studies on Emergencies and Disaster
Relief

(Uppsala, Sweden: Noediska Afrikainstitutet and Swedish
International Development Cooperation Agency, 1995) 50pp, ISBN 91
7106 374 9

暴力なき正義

Paul Wehr, Heidi Burgess, Guy Burgess 共編

Justice without Violence

(London: Lynne Rienner, 1994) 301pp, ISBN 1 55587 465 7

世界中の深刻な政治的、経済的不公正に対抗するための非暴力の手法を検証している。本書は理論分析と事例研究（アジアからアフリカ、ヨーロッパ、中南米、中東）を織り交ぜている。非暴力の直接行動、政治的・経済的制裁、公正を求める代替的救済策としての社会運動について検証している。

紛争の規制

Paul Wehr 著

Conflict Regulation

(Boulder, USA: Westview Press, 1979)

著者はガンジーが提唱した手法である「自制した闘争」を分析した後、潜在的な和解の気運をできる限り高めて対立を融合させる手法について

肯定的な評価を与えている。

文化的多元主義の政治学

Crawford Young 著

The Politics of Cultural Pluralism

(Madison, USA: University of Wisconsin Press, 1976)

本書ではポスト植民地時代における多民族主義の現実、政府や国家が従来より巧みに対処するための手法を概説している。

見えにくい平和－内戦終結交渉

I William Zartman 編

Elusive Peace: Negotiating an End to Civil Wars

(Washington, USA: Brookings Institution, 1996) 353pp, ISBN 0 8157 9703 6

国内紛争は国家間紛争に比べて交渉によって解決することは難しいだろう。複数の著者によって書かれた本書は、民族よりもむしろ権力の不均衡に焦点をあて、現代の国内紛争の扱いの難しさの理由を検証し、成果を得られる交渉が可能となるような手法を提示している。その際に、スリランカやスペインのバスク地方、スーダン、エリトリア、エチオピア、レバノン、南アフリカ、アンゴラ、モザンビーク、アフガニスタン、コロンビア、フィリピンの国内紛争を詳細に検証している。

多角的国際交渉－複雑性への対応方法

I William Zartman 編

International Multilateral Negotiation: Approaches to the Management of Complexity

(San Francisco: Jossey-Bass, 1994)

本書の各寄稿者は様々な政府や多国籍企業、その他の国際的主体の間で合意を形成するための様々なアプローチを考察している。本書では多角的交渉の複雑性を分析し管理するための手法が提示されている。

実践的交渉者

I William Zartman, Mauren B Berman 共著

The Practical Negotiator

(London: Yale University Press, 1982) 250pp, ISBN 0 300 03097 5

外交の本質に関する入門書である。理論と実践の組み合わせとなっている。本書は実行可能な交渉技能と戦略の基本的特徴の概説を試みている。

3. 学術誌、ニュースレター

Africa World Review (年6回発行)

Africa Research and Information Bureau

ARIB, 5 Westminster Bridge Road, London SE1 7XW, UK

ASEN Bulletin (年6回発行)

Association for the Study of Ethnicity and Nationalism

ASEN, Room L54, London School of Economics, Houghton Street, London WC2A 2AE, UK

Conflict Resolution Network News (年3回発行)

CRN, PO Box 1016, Chatswood, NSW 2057, Australia

Conflict Resolution Notes (毎月発行)

Conflict Resolution Center International

CRCI, 2205 E Carson Street, Pittsburgh, Pa 15203, USA

Foreign Affairs (年6回発行)

Council for Foreign Relations

CFR, Box 420235, Palm Court, FL 32142, USA

International Peacekeeping (年4回発行)

Frank Cass Ltd, 900 Eastern Avenue, London IG2 7HH, UK
5804 NE Hassalo Street, Portland, Or 97213, USA

International Peacekeeping News (年6回発行)

Department of Peace Studies, Bradford University and Farndon House
Information Trust
Richard Jones, Dfax, 53 Campus Road, Bradford BD7 1HR, UK

Journal of Peace Research (年4回発行)

International Peace Research Institute
Sage Publications, 6 Bonhill Street, London EC2A 4PU, UK&PO Box 5096,
Thousand Oaks, Ca 91359, USA

New Routes, Journal of Peace Research and Action (年4回発行)

Life and Peace Institisute
LPI, Sysslomansgatan 7, 751 70 Uppsala, Sweden

Network News

Coordinating Committee for Conflict Resolution Training in Europe
CCRTE, c/o IFOR, Spoorstraat 38, 1815 BK Alkmaar, The Netherlands

Online and Update (年4回発行)

Conflict Management Group
CMG, 20 University Road, Cambridge, Ma 02138, USA

Peace Builder (年4回発行)

Institute for Multi-Track Diplomacy
IMTD, 1819 H Street, NW, Suite 1200, Washington, DC 20006, USA

Peace Review (年4回発行)

Lynne Reiner Publishers, 1800 30th Street, Suite 314, Boulder, Co
80301, USA

Peace Watch (年6回発行)

United States Institute of Peace
USIP, 1550 M Street NW, Suite 700, Washington, DC 20005, USA

Reconciliation International (年6回発行)

International Fellowship of Reconciliation
IFOR, Spoorstraat 38, 1815 BK Alkmaar, the Netherlands

Resolutions (年4回発行)

Centre for Dispute Resolution
CEDR, 7 St Catherine's Way, London E1 9LB, UK

Security Dialogue (年4回発行)

International Peace Research Institute
Sage Publications, 6 Bonhill Street, London EC2A 4PU, UK & PO Box 5096,
Thousand Oaks, Ca 91359, USA

Survival (年4回発行)

International Institute for Strategic Studies
IISS, 23 Tavistock Street, London WC2E 7NQ, UK

**War Report, Bulletin of the Institute for War and Peace
Reporting (毎月発行)**

IWPR, Lancaster House, 33 Islington High Street, London N1 9LH, UK
Box 2617, New York, NY 10185, USA

4. インターナショナル・アラート出版物とトレーニング報告書

1. 紛争転換能力育成ワークショップ

平和創造者のための能力開発－平和支持層の形成に向けて

Capacity-Building for Peacemakers: Towards the Formation of Peace
Constituencies

Dakar-Senegal, December 1995

紛争解決のためのトレーニング

Training in Conflict Resolution

Bujumbura, Burundi, August 1995

平和創造における市民参加

Citizens' Participation in Peacemaking

カトリック司教のためのセミナーの報告書

Sincelejo, Colombia, October 1994

アフリカにおける平和創造－平和創造者のトレーニング

Peacemaking in Africa: Training Peacemakers

Mombasa, Kenya, June 1994

北コーカサス、グルジア、ロシア南部における紛争解決トレーニング

Conflict Resolution Training in the North Caucasus, Georgia and
South of Russia

Rostov-on-Don, Russia, April 1994

北コーカサスおよびグルジアにおける紛争解決トレーニング

Training Resolution Training in the North Caucasus and Georgia
Nalchik, Karbadino-Balkaria, November 1993

北コーカサスおよびグルジアにおける紛争解決トレーニング

Conflict Resolution Training in the North Caucasus and Georgia
Piatigorsk, North Caucasus, June 1993

異文化間の紛争解決トレーニング

Intercultural Conflict Resolution Training
Gernika, Spain, April 1993

2. 集会

シエラレオーネ和平交渉－報告と反省

Sierra Leone Peace Talks: Reports and Reflections
Abidjan and Yamoussoukro, Cote d'Ivoire, June 1996

予防のための NGO 連合－前進への道

NGO Coalition for Prevention: The Way Forward
Oslo, Norway, November 1995

アフリカにおける早期警報と予防外交のための地域メカニズム

Regional Mechanisms for Early Warning and Preventive Diplomacy in
Africa

フォーカル・ポイントのためのワークショップ報告書

Addis-Ababa, Ethiopia, October 1995

紛争予防のための合同声明に向けて

Towards A Coalition Agenda for Conflict Prevention
Oslo, Norway, May 1995

3. 宣言

中南米における平和創造：我々の挑戦

Peacemaking in Latin America: Our Challenge

Melgar, Colombia, May 1995

リムル宣言 時代の要請 市民による平和創造

The Limuru Declaration, Imperative of the Hour: Citizens' Peacemaking

Limuru, Kenya, March 1995

シンセンジョ宣言 市民による平和構築

Sincelejo Declaration: Citizens' Peace-Building

Sincelejo, Colombia, October 1994

マニラ宣言 平和創造についての国際会議

Manila Declaration: International Colloquium on Peacemaking

Manila, Philippines, July 1993

紛争転換リソースパック

紛争転換トレーニングと紛争転換能力育成は、人々や組織が紛争の予防や解決、転換に関する技能を向上させ、紛争への理解を深めることによって暴力的な社会・政治紛争に対処する方法を改善することを主眼に置いている。

インターナショナル・アラートは包括的なリソースパックを開発した。これはトレーナーや仲介者、研修生（受講者）、その他の紛争転換分野に関心ある人々のために構成されており、紛争の理論分析のみならずワークショップ運営やその内容に関する実践的な情報についても扱っている。

リソースパックを構成する5つの章

1. インターナショナル・アラートの紛争転換アプローチ (Introduction)
2. 紛争についての考察 (Thinking about Conflict)
3. 紛争転換能力育成ワークショップー理論編 (Capacity-Building Workshops: Content)
4. 紛争転換能力育成ワークショップ手順と立案) (Capacity-Building Workshops: Process and Planning)
5. 注釈付き参考文献 (Annotated Bibliography)